

教育研究業績書

2023年10月23日

所属：社会福祉学科

資格：教授

氏名：半羽 利美佳

| | |
|---------------|--|
| 研究分野 | 研究内容のキーワード |
| ソーシャルワーク、社会福祉 | スクールソーシャルワーク、子ども支援 |
| 学位 | 最終学歴 |
| 修士（社会福祉学） | ミシガン大学大学院 社会福祉学部 Interpersonal Practice(対人関係実践)専攻 修了 |

| 教育上の能力に関する事項 | | |
|--------------------------------------|----------------------|---|
| 事項 | 年月日 | 概要 |
| 1 教育方法の実践例 | | |
| 1. 大心4年担任業務 | 2023年4月1日～現在 | 個別面談および集団指導において、教務指導・進路指導を行っている。 |
| 2. 大心3年生担任業務 | 2022年4月1日2023年3月31日 | 個別面談などを通して学生一人ひとりの性格や状況を把握しながら、教務指導や進路指導にあたった。 |
| 3. 大心2年担任業務 | 2019年4月1日2020年3月31日 | 社会福祉コースを選択した学生に対し、ソーシャルワーク専門職のやりがいや意義を伝えて国家試験取得へのモチベーションを高めることを意識している。 |
| 4. 大心1年担任業務 | 2018年4月1日～2019年3月31日 | 高校生活から大学生活に円滑になじめるように、個別面談や集団指導を通じて学生をサポートするとともに、主体的に学ぶクラスづくりを意識した。 |
| 5. 大心1年担任業務 | 2017年4月1日～2018年3月31日 | 体育祭、文化祭、丹嶺宿泊研修に積極的に学生が取り組めるように側面的に支援した。また、大学での学びと高校までの学びの違いを示し、学生達が主体的に学ぶための基盤づくりを心がけた。 |
| 6. 大心2年担任業務 | 2016年4月1日～2017年3月31日 | 社会福祉コースとしての凝集性を高めるための働きかけを行うとともに、専門職教育が本格化する中で進路指導も意識しながら学生とコミュニケーションを取ることがを心がけた。 |
| 7. 地域貢献および学生の大学での学びと実践を意識した授業の実施 | 2016年～現在 | 社会福祉実践を行っている行政機関、施設、NP0法人などと連携し、それぞれの事業内容を授業で積極的に紹介するとともに、ボランティア情報を学生に提供している。これらを通して学生が大学での学びを地域で実践する機会を得、より具体的に授業内容を理解することを意識している。また、学生が地域で活動することは地域貢献にもつながっている。 |
| 8. 大心1年担任業務 | 2015年4月1日～2016年3月31日 | 個別面談を丁寧に行い、学生たちの精神的サポートを心がけるとともに、大学での学びの面白さに気づいてもらえるよう工夫した。また、後期のコース選択に向けて個別面談を行い、それぞれの思いを聞き取り、より満足いくコース選択ができるように支援した。 |
| 9. 大心2年担任業務 | 2014年4月1日～2015年3月31日 | 個別面談などを通して学生一人ひとりの性格や状況を把握しながら、教務指導や進路指導にあたった。 |
| 10. 国家試験対策 | 2014年4月～現在 | 国家試験の合格率向上のために、主に3年生・4年生の学生の合格へのモチベーションを高める様々な仕掛けを行っている。具体的には、年間3～4回の学内模試とその講評や年2回の合宿、年末年始の学習サポート、年間を通じてのゼミの自主勉強会のサポートなどである。 |
| 11. 大心1年担任業務 | 2013年4月1日～2014年3月31日 | 大学とはどのようなところか、何をどう学んでいくのかについて学生がイメージできるような授業展開を心がけた。 |
| 12. PF-NOTEおよびクリッカーを活用した面接技術習得のための演習 | 2013年～現在 | ソーシャルワーク演習 I では面接技術の習得のため、一定の面接技術を学習したのちロールプレイを実施する。そのロールプレイ場面をPF-NOTEで録画し、ロールプレイ後すぐに録画画像をみながら振り返りを行う。また、ロールプレイを見ている学生たちにはクリッカーを持たせ、ロールプレイの内容をオンタイムで評価させ、ロールプレイ後はその評価の理由等を口頭発表させている。PF-NOTEおよびクリッカーの活用により教育効果が向上するとともに学生の主体的参加も実現 |

| 教育上の能力に関する事項 | | |
|---|------------------------|---|
| 事項 | 年月日 | 概要 |
| 1 教育方法の実践例 | | |
| 13. 地域貢献を視野に入れた授業の実施 | 2012年～2015年 | している。 短大開講の「コミュニティボランティアの実践」において、受講の前提条件として授業外で社会福祉関連のボランティア活動を実施することを提示した。これにより、学生の主体的なボランティア活動参加を促した。また、学生たちには自身のボランティア活動から現在の社会問題に関する問題提起をさせ、その改善のために一学生あるいは一市民としてどのような貢献ができるかを考えさせた。 |
| 14. 講義授業における双方向および参加型授業の実施 | 2006年～現在 | 大人数の講義授業においても常に双方向および参加型授業を意識している。積極的に学生から意見を聞き出したり、クイズ形式で質問をし学生とやり取りをしながら解答を導いたり、グループワークを取り入れて学生間のディスカッション機会を増やしたり、グループワークの成果を発表させたりしながら、学生が主体的に授業に参加できるよう工夫している。 |
| 2 作成した教科書、教材 | | |
| 1. スクールソーシャルワークハンドブック 実践・政策・研修 | 2020年11月30日 | キャロル・リッペイ・マサット、マイケル・S・ケリー、ロバート・コンスタブル編著 山野則子監修 駒田安紀、佐藤亜紀、厨子健一、半羽利美佳、比嘉昌哉、平尾桂、横井葉子 監訳 担当：第3章、付録C |
| 2. 新版よくわかる地域福祉 | 2019年4月30日 | 上野谷加代子・松端克文・永田祐 編者 秋貞由美子、新崎国広、石井洗二、猪俣健一、鶴浦直子、奥田佑子、加山弾、川井太加子、半羽利美佳 他20名 担当：Ⅷ-4「貧困と子ども」(p.130-131)、Ⅷ-5「スクールソーシャルワークと子ども」(p.132-133) |
| 3. 『スクールソーシャルワーカー実務者テキスト』 | 2016年5月 | 金澤ますみ・奥村賢一・郭理恵・野尻紀恵編 奥村賢一、郭理恵、金澤ますみ、水流添綾、野尻紀恵、半羽利美佳、馬場幸子、峯本耕治、森本智美、幸重忠孝、他14名(学事出版) 担当：2-6「社会資源の把握①-資源一覧-」(p.46-47) 「スクールソーシャルワーク」の授業で補助教材として使用している。 |
| 4. 『よくわかるスクールソーシャルワーク』 | 2012年4月(第2版2016年10月刊行) | 山野則子・野田正人・半羽利美佳編著 担当：第3章-1(p.32-33)・3・4(p.36-39)、第7章-6(p.132-135)・9(p.144-147) 「スクールソーシャルワーク」の授業で使用している。 |
| 5. ソーシャルワーク演習ⅠAにおける記録技法に関する冊子の作成 | 2010年～現在 | ソーシャルワーク演習ⅠAで学ぶ記録技法を一冊の冊子にまとめ、体系的に学べるようにした。この冊子は、次年度・次々年度でのソーシャルワーク実習およびソーシャルワーク実習指導においても活用できるものとして作成した。 |
| 6. ソーシャルワーク演習ⅠAにおけるロールプレイ用ワークシートの作成 | 2010年～現在 | ソーシャルワーク演習ⅠAでの学びの集大成として、自分たちで事例を考え、それをもとにした相談援助場面のロールプレイを考えさせている。この一連の作業がこれまでの学びの積み重ねであることが意識できるように工夫したワークシートを作成した。 |
| 7. 授業内容にそった配布プリント | 2006年～現在 | 学生の興味・関心度および理解度の向上のため、授業内容にそって、補足資料や穴埋め問題などを含めたプリントを配布している。 |
| 3 実務の経験を有する者についての特記事項 | | |
| 1. 日本精神神経科診療所協会「こどものこころの健康を考えるシンポジウム～現代の子育ての現状と未来～」シンポジスト | 2019年7月28日 | 「スクールソーシャルワーカーの視点から子育てを考える」と題して、不登校や発達課題のある子どもや精神疾患の親をもつ子どもの事例を提示しながら、地域でどのように子どもを支えていくかについて発言し |

| 教育上の能力に関する事項 | | |
|--|-------------|---|
| 事項 | 年月日 | 概要 |
| 3 実務の経験を有する者についての特記事項 | | |
| 2. 兵庫県教育委員会 平成30年度第2回スクールソーシャルワーカー連絡協議会の講師 | 2019年2月27日 | た。 兵庫県下の県および市町スクールソーシャルワーカーおよび指導主事に対して、「介入が難しいケースへのアプローチを考える」と題して講演を行った。 |
| 3. 神河町幼小中教職員研修会の講師 | 2018年8月6日 | 町内の幼小中教職員約100名に対して、「子どもを理解し、学校と関係機関をつなぐ～スクールソーシャルワーカーの視点を通して～」と題した講演を行った。 |
| 4. 平成30年度 清水が丘学園児童心理臨床セミナー「第19回公開講座」コメンテーター | 2018年8月3日 | 分科会「子どもを支えるための地域支援～学校と相談機関のよりよい連携について～」において、スクールソーシャルワーカーの観点から学校の現状を踏まえた連携のポイント等について発言した。 |
| 5. 第46回兵庫県学校事務研究集会の講師 | 2018年7月30日 | 同集会の全体会において、「子どもたちの健全な成長発達のために学校スタッフとしてできることを考える」と題した講演を行った。 |
| 6. 平成30年度県立学校生徒指導部長会の講師 | 2018年5月21日 | 同会において、「高等学校におけるスクールソーシャルワーカーの効果的な活用について」と題した講演を行った。 |
| 7. 関西若手議員の会 議員研修会の講師 | 2018年4月18日 | 「学校におけるソーシャルワークの必要性」と題して講演を行った。 |
| 8. 三田市スクールカウンセラー連絡協議会・研修会講師 | 2016年8月30日 | 三田市教育委員会所属のスクールカウンセラーを対象に「スクールカウンセラーとスクールソーシャルワーカーの効果的な連携に向けて」というタイトルで研修を行った。 |
| 9. 阪神地区小・中・特別支援学校生徒指導研究協議会 | 2016年6月17日 | 阪神教育事務所が管轄内の小・中・特別支援学校生徒指導担当者を対象に実施した研修会で「関係機関との連携～スクールソーシャルワーカーの活用も視野に入れて～」というタイトルで講演を行った。 |
| 10. 兵庫県小中学校生徒指導担当教員等研修会 講師 | 2016年5月11日 | 兵庫県教育委員会が県下の小中学校生徒指導担当教員を対象に行った研修会で「スクールソーシャルワーカーの効果的な活用について」というタイトルで講演を行った。 |
| 11. 香川スクールソーシャルワークセミナー 講師 | 2016年2月28日 | 香川県スクールソーシャルワーカー協会主催のセミナーにおいて「子どもを中心に据えたチーム支援」というタイトルで講演を行った。 |
| 12. ケアステーションかんざき専門職研修会 講師 | 2015年2月28日 | ケアステーションかんざきの専門職員を対象に「障がいをもつ子ども達をどう支えるのか」というタイトルで研修を行った。 |
| 13. 「施設で生活する子どもたち」支援実践交流集会 コーディネーター・話題提供者 | 2014年12月20日 | 兵庫県教職員組合が県下の教職員を対象に実施した交流集会においてパネルディスカッションのコーディネーターを行うとともに、「学校をプラットフォームとした社会的養護の必要性」というタイトルで話題提供を行った。 |
| 14. 阪神教育事務所研修会 講師 | 2014年11月4日 | 阪神教育事務所管轄内の指導主事を対象に「スクールソーシャルワーカーの有効活用に向けて」というタイトルで研修を行った。 |
| 15. 丹波地区生徒指導研究協議会 講師 | 2014年8月27日 | 丹波市教育委員会および丹波市教育事務所が主催する生徒指導研究協議会において「支援を必要とする生徒指導への組織的な対応について」というタイトルで研修を行った。 |
| 16. 阪神教育事務所管内研修会 講師 | 2014年～現在 | 年に2～4回程度、播磨西教育事務所が管内のスクールソーシャルワーカーおよび担当指導主事を対象に実施した研修会およびスーパービジョンを行っている。 |
| 17. 但馬教育事務所管内研修会 講師 | 2014年～現在 | 年に2回程度、但馬教育事務所が管内のスクールソーシャルワーカーおよび担当指導主事を対象に実施した研修会およびスーパービジョンを行っている。2016年度からは市町スクールソーシャルワーカーも参加している。 |
| 18. 丹波教育事務所管内研修会 講師 | 2014年～現在 | 年に2回程度、丹波教育事務所が管内のスクールソーシャルワーカーおよび担当指導主事を対象に実施した研修会およびスーパービジョンを行っている。 |

| 教育上の能力に関する事項 | | |
|---|-----------------------|---|
| 事項 | 年月日 | 概要 |
| 3 実務の経験を有する者についての特記事項 | | |
| 19. 播磨東教育事務所管内研修会 講師 | 2014年～現在 | 年に2～4回程度、播磨東教育事務所が管内のスクールソーシャルワーカーおよび担当指導主事を対象に実施した研修会およびスーパービジョンを行っている。 |
| 20. 兵庫県スクールソーシャルワーカー連絡協議会 講師 | 2014年～現在 | 年2回程度、兵庫県教育委員会所属のスクールソーシャルワーカーおよび担当指導主事を対象に研修およびスーパービジョンを行っている。2017年度からは、県下の市町スクールソーシャルワーカーも参加者に加わっている。 |
| 21. 播磨西教育事務所管内研修会 講師 | 2014年～現在 | 年に2～4回程度、播磨西教育事務所が管内のスクールソーシャルワーカーおよび担当指導主事を対象に実施した研修会およびスーパービジョンを行っている。 |
| 22. 淡路教育事務所管内スクールソーシャルワーク研修会 講師 | 2014年～現在 | 年2回程度、淡路教育事務所管内のスクールソーシャルワーカーおよび指導主事に対して研修およびスーパービジョンを行っている。 |
| 23. 香川県スクールソーシャルワーカー協会 研修 講師 | 2013年5月12日 | 香川県スクールソーシャルワーカー協会主催の一般公開研修会において「日本が学ぶべきアメリカのスクールソーシャルワークのシステム～アメリカの現状と課題～」というタイトルで講演を行った。 |
| 24. 全国社会福祉協議会（中央福祉学院）社会福祉主事資格認定通信課程 面接授業 講師 | 2013年3月～現在 | 全国社会福祉協議会（中央福祉学院）主催の社会福祉主事資格認定通信課程の面接授業を2013年3月から毎年1～2回担当している。 |
| 25. 三田市教育委員会 子どもの教育講演会 講師 | 2013年2月12日 | 三田市の教職員を対象に「不登校の子どもたちへの理解と支援について」というタイトルで講演を行った。 |
| 26. 豊岡市小・中学校不登校担当者研修会 講師 | 2012年11月5日 | 豊岡市教育委員会が市内の小・中学校不登校担当者を対象に実施した研修会で「不登校の児童生徒への対応～不登校をどのように考え、どうアプローチすればよいか～」というタイトルで研修を行った。 |
| 27. 津和野町スクールソーシャルワーク研修会 講師 | 2012年8月9日 | 津和野町の小・中・高等学校管理職および教職員を対象に「学校・スクールソーシャルワーカー・他機関の協働について」というタイトルで研修を行った。 |
| 28. 伊丹市立総合教育センター トワイライト研修 講師 | 2012年6月7日 | 伊丹市の教職員を対象に「不登校の子どもたちと家庭への支援」というタイトルで研修を行った。 |
| 29. 全国社会福祉協議会（中央福祉学院）社会福祉施設長資格認定講習講座 講師 | 2011年12月11日 | 全国社会福祉協議会（中央福祉学院）主催の社会福祉施設長資格認定講習講座において「社会福祉援助技術論」の講義を行った。 |
| 30. 学校支援チーム・既往等学校問題解決サポートチーム等連絡協議会 講師 | 2011年11月10日 | 兵庫県教育委員会が県下の教職員を対象に実施した研修会で「広域スクールソーシャルワーカーの有効活用に向けて」というタイトルで講演を行った。 |
| 31. 但馬やまびこの里 不登校に関する研修会 講師 | 2011年8月9日 | 兵庫県内の教職員を対象とした但馬やまびこの里主催の研修会で「不登校の児童生徒への効果的な支援について～スクールソーシャルワーカーとの連携～」というタイトルで講演を行った。 |
| 32. 兵庫県内教育研究所連盟 教育相談研究協議会 講師 | 2011年7月11日 | 兵庫県内教育研究所連盟が県下の教職員を対象に実施した研修会で「スクールソーシャルワーカーの働きと課題」というタイトルで講演した。 |
| 33. 岐阜県社会福祉士会 スクールソーシャルワーカー養成講座 講師 | 2010年8月1日 | 岐阜県社会福祉士会が主催した社会福祉士および一般市民を対象とした講座において「学校現場におけるソーシャルワーカーの機能と役割とは」というタイトルで講演をした。 |
| 34. 沖縄大学 スクールソーシャルワーク講演会 講師 | 2009年8月1日 | 沖縄大学が学生および一般市民を対象に実施した講演会において「子どもによりそう大人として～スクールソーシャルワークの視点から」というタイトルで講演をした。 |
| 4 その他 | | |
| 1. 大阪府立生野高等学校 模擬授業 講師 | 2016年7月13日 | 「社会福祉の奥深さを知ろう！」というタイトルで模擬授業を実施した。 |
| 2. 京都府立城南菱創高等学校 模擬授業 講師 | 2012年8月10日 | 「社会福祉の奥深さを知ろう！」というタイトルで模擬授業を実施した。 |
| 3. 兵庫県立伊丹西高等学校 模擬授業 講師 | 2011年4月26日、2011年5月10日 | 「人との関わりについて」というタイトルで、社会福祉的視点から全2回の模擬授業を実施した。 |

| 職務上の実績に関する事項 | | |
|---------------------------------|-----------------------|---|
| 事項 | 年月日 | 概要 |
| 1 資格、免許 | | |
| 1. 米国・ミシガン州ソーシャルワーカー | 1994年6月14日～1997年4月30日 | State of Michigan Board of Examiners of Social Workers Social Worker (登録番号6801071491) |
| 2 特許等 | | |
| 3 実務の経験を有する者についての特記事項 | | |
| 1. 太子町スクールソーシャルワーカーへのスーパーバイズ | 2021年4月～現在 | 太子町スクールソーシャルワーカーに対し年間3回のスーパーバイズを行っている。 |
| 2. 伊丹市いじめ防止等対策審議会臨時委員 | 2015年8月～2016年3月 | いじめ防止対策推進法に基づいて設置された伊丹市いじめ防止等対策審議会において臨時職員を委嘱された。重大事案の発生にともなって背景調査を行い、再発防止策を提案した。 |
| 3. 宍粟市いじめ問題対策委員 | 2015年4月～現在 | いじめ防止対策推進法に基づいて設置された宍粟市いじめ問題対策委員会において対策委員を委嘱された。各学校から報告されたいじめ事案が重大事案にあたるかどうかを審議し、対応等についての助言を行う。重大事案が発生した場合は背景調査を行い、再発防止策を提案する。 |
| 4. 伊丹市スクールソーシャルワーカーへのスーパーバイズ | 2015年4月～現在 | 2015年度より伊丹市スクールソーシャルワーカーに対し年間3回のスーパーバイズを行っている。 |
| 5. 兵庫県スクールソーシャルワーカーへのスーパーバイズ | 2014年4月～現在 | 2014年度より兵庫県下の9つ（2015年度より6つ）の教育事務所に配置されているスクールソーシャルワーカー9名に対する年間2回ずつの個別スーパービジョンと、9名全員および県下の市町配置スクールソーシャルワーカーを集めた連絡協議会でのスーパービジョンを実施している。 |
| 6. 宝塚市児童館等バックアップ事業におけるスーパーバイズ | 2014年4月～2018年3月 | 宝塚市内の児童館職員に対し、年8回、福祉的視点からスーパーバイズを実施した。 |
| 7. 三田市生徒指導等問題対策委員（副委員長） | 2013年4月2021年3月 | 三田市が設置した生徒指導等問題対策委員会において対策委員を委嘱された。各学校から報告されたいじめ事案が重大事案にあたるかどうかを審議し、対応等についての助言を行っている。委員長の補佐役として副委員長を担っている。 |
| 8. 一般社団法人チャンス・フォー・チルドレン アドバイザー | 2012年4月～現在 | チャンス・フォー・チルドレンでは、子どもの貧困対策として低所得層の子どもを対象としたパウチャー制度を実施している。対象児童に対応している学生サポーターに対する助言・指導、対象児童の選定、同団体の今後の発展に向けての助言等に携わっている。 |
| 9. NPO法人日本スクールソーシャルワーク協会副会長 | 2007年4月～2012年3月 | 日本でスクールソーシャルワークを普及させることを目的に設立した同協会に設立当初から関わる中で、2007年から5年間副会長として同協会の発展に携わった。 |
| 10. 赤穂市スクールソーシャルワーカーおよびスーパーバイザー | 2000年4月～現在 | 赤穂市と関西福祉大学の共同研究として始まったスクールソーシャルワークパイロット事業（2000年当初）において、スクールソーシャルワーカーとして委嘱され、子ども・家族・学校に対して直接的および間接的に支援活動を展開するとともに、同市スクールソーシャルワーカーに対するスーパービジョンを行っている。 |
| 4 その他 | | |

| 研究業績等に関する事項 | | | | |
|------------------------|---------|---------------|-------------------|---|
| 著書、学術論文等の名称 | 単著・共著書別 | 発行又は発表の年月 | 発行所、発表雑誌等又は学会等の名称 | 概要 |
| 1 著書 | | | | |
| 1. 児童・家庭福祉 子供と家庭の最善の利益 | 共 | 2022年5月1日刊行予定 | ミネルヴァ書房 | 立花直樹・渡邊慶一・中村明美・鈴木晴子 編著 立花直樹、大野地平、潮谷恵美、明柴聡史、谷村和秀、丸目満弓、渡邊慶一、山田裕一、鈴木晴子、中村明美、岡田強志、堺恵、野澤孝好、祐東孝好、中西真、佐藤剛、半羽利美佳 |

研究業績等に関する事項

| 著書、学術論文等の名称 | 単著・共著書別 | 発行又は発表の年月 | 発行所、発表雑誌等又は学会等の名称 | 概要 |
|----------------------------|---------|------------------------------------|-------------------|---|
| 1 著書 | | | | |
| 2. 新版よくわかる地域福祉 | 共 | 2019年4月 | ミネルヴァ書房 | <p>担当：第18章「子ども・若者の健全育成といじめ防止対策」(p. 226-238)</p> <p>本書は、初心者にもわかりやすく社会福祉を説明するとともに、社会福祉士・精神保健福祉士・介護福祉士・保育士等の養成テキストとして活用できるものである。担当部分では、子ども・若者を取り巻く状況や児童健全育成の動向を概観しながら、関連法や施策について整理している。また、増加するいじめ問題の現状と課題についてまとめている。</p> <p>上野谷加代子、松端克文、永田祐編著 上野谷加代子、松端克文、永田祐、秋貞由美子、新崎国広、石井洗二、栄セツコ、渋谷篤男、半羽利美佳 他23名</p> <p>担当：第8章の4「貧困と子ども」(p.130-131) 第8章の5「スクールソーシャルワークと子ども」(p.132-133)</p> <p>本書は地域福祉の基本的な考え方・捉え方、理論と概念、発展過程、政策展開、推進方法、地域福祉計画の考え方や取り組み方法について整理している。また、今日の地域福祉実践における重要なテーマとなる子どもや災害と地域福祉との関連にも触れている。担当部分では、子どもの貧困の現状と地域における対策、子ども支援の地域資源の一つであるスクールソーシャルワーカーの現状と実践成果をまとめた。</p> |
| 3. スクールソーシャルワーカー実務テキスト | 共 | 2016年5月 | 学事出版 | <p>金澤ますみ、奥村賢一、郭理恵、野尻紀恵編 奥村賢一、郭理恵、金澤ますみ、水流添綾、野尻紀恵、半羽利美佳、馬場幸子、峯本耕治、森本智美、幸重忠孝、他14名</p> <p>担当：2-6「社会資源の把握①-資源一覧-」(p.46-47)</p> <p>本書はスクールソーシャルワーカーとして初めて学校現場で実践を始める人やスクールソーシャルワーカーとともに働く学校教職員や教育委員会向けにまとめたものである。スクールソーシャルワーカーとして活動をし始めるために必要な視点や知識を具体的に実践に落とし込めるよう工夫されている。担当部分では、スクールソーシャルワーカーとして知っておくべき社会資源を整理するとともに、社会資源を活用する際の注意点をまとめている。</p> |
| 4. よくわかるスクールソーシャルワーク | 共 | 2012年4月 (第2版 2016年10月 刊行) | ミネルヴァ書房 | <p>山野則子・野田正人・半羽利美佳編著 担当：第3章-1 (p.32-33) ・3・4 (p.36-39)、第7章-6 (p.132-135) ・9 (p.144-147)</p> <p>本書はスクールソーシャルワークの必要性、歴史と動向、展開過程、実践事例、学校教育の特徴等をまとめたテキストである。担当部分について、第3章ではアメリカと韓国など他国のスクールソーシャルワークの状況を、第7章では学力保障や貧困とスクールソーシャルワーク支援の関連性を整理している。</p> |
| 5. スクールソーシャルワーカー養成テキスト | 共 | 2008年10月 | 中央法規 | <p>日本学校ソーシャルワーク学会編集 門田光司、半羽利美佳、大崎広行、鈴木庸裕、野田正人、奥村賢一、浜田知美、岩崎久志、安倍計彦、山野則子、他16名</p> <p>担当：第1章第1節「アメリカの学校ソーシャルワークの誕生から現在」(p.12-20)</p> <p>本書は2008年より開始された文部科学省のスクールソーシャルワーカー活用事業を受け、関係者に学校ソーシャルワークとスクールソーシャルワーカーの役割および活動に対する理解を促すことを目的としており、学校ソーシャルワークの歴史や専門的基盤、援助技術、学校ソーシャルワーク実践の実態等をまとめている。担当部分では、アメリカの学校ソーシャルワークの誕生から現在までの発展史を示している。</p> |
| 6. スクールソーシャルワーク論—歴史・理論・実践— | 共 | 2008年02月 | 学苑社 | <p>日本スクールソーシャルワーク協会編 山下英三郎・内田宏明・半羽利美佳編著 担当：第2章「スクールソーシャルワークの国際的動向」(p.23-36)</p> <p>本書はスクールソーシャルワークの国内外の動向や歴史、活動となる価値と理論、人材育成の課題について論じたものである。担当部分では、近年のスクールソーシャルワークの国際的な動向と今後の展望と課題をまとめた。</p> |

研究業績等に関する事項

| 著書、学術論文等の名称 | 単著・共著書別 | 発行又は発表の年月 | 発行所、発表雑誌等又は学会等の名称 | 概要 |
|-----------------------------------|---------|------------------------------|-------------------------|---|
| 1 著書 | | | | |
| 7. 事例で学ぶ4 社会福祉援助技術Ⅲ 児童・家庭編 | 共 | 2007年4月 | 学文社 | 古川繁子、汐見和恵編著 古川繁子、汐見和恵、汐見稔幸、宮下裕一、石本真紀、加藤定夫、宮内克代、植草一世、山田純子、井桁容子、半羽利美佳 担当：第4章2「児童の心理・社会的アプローチ」(p.148-153) 本書は社会福祉援助技術の子どもや地域・家族に関わる福祉の専門従事者に必要な基礎理論と知識をわかりやすく整理するとともに、児童・家庭分野の事例を提示し、その事例分析を通して理解を促すことを目指している。担当部分では、アメリカの児童虐待の保護機関や処遇の流れ、病院におけるチームアプローチについて整理した。 |
| 8. ソーシャルワーク記録の研究と実際 | 共 | 2006年04月 | 相川書房 | 岩間文雄編著 岩間文雄、岩間麻子、幸重忠孝、金田知子、與那嶺司、伊藤泰三、半羽利美佳、長江史憲、土田耕司、木本達男、西久保幸子、大西尚子、安積麻衣子 担当：第6章「社会福祉教育と記録」(p.97-110) 本書は、ソーシャルワークの記録に関する研究が直面している論点を整理し、包括的に把握することを目的としている。担当部分では、社会福祉実習における実習記録の意義と課題や理論と実践のリンクについて、アメリカの実習教育を応用しながらまとめた。 |
| 9. 事例で学ぶ児童福祉論 | 共 | 2006年03月 | 学文社 | 加藤定夫、古川繁子編著 加藤定夫、渋谷昌史、古川繁子、勅使河原隆行、緑間科、伏見幸子、青柳育子、西尾敦史、宮内克代、具守珍、宗貞秀紀、半羽利美佳、石川由美子、柏崎龍夫、植草一世、柳澤邦夫 担当：第4章「ソーシャルワークと児童福祉」(p.89-112) 本書は「福祉の実践や現場と学生をつなぐ」をコンセプトに、福祉や保育分野の学生に向けて作成されたテキストである。担当部分では、ソーシャルワークの基本的概念、児童健全育成の概要、障がい児に対する福祉的支援を整理した。 |
| 10. スクールソーシャルワークの展開 | 共 | 2005年08月 | 学苑社 | 日本スクールソーシャルワーク協会編 半羽利美佳、菱沼智明、浜田知美、戸田めぐみ、森幸雄、石井サト、鈴木庸裕、大塚美和子、比嘉昌哉、牧野晶哲、新上紗代、山岡聡、竹村睦子、丸山康彦、祖父江知子、内田宏明、高月雅子、長俊介、中西拓子、金田寿世 山下英三郎監修 担当：パート1-1「兵庫県赤穂市におけるスクールソーシャルワーク実践活動をとらえて」(p.7-16) 本書は、わが国においてスクールソーシャルワーカーとしての活動している20名の実践について、学校の中・外・地域という3つのパートに分けて紹介している。担当部分では、筆者のスクールソーシャルワークとの出会いから赤穂市における実践の実際をまとめている。 |
| 11. 社会福祉エッセンス | 共 | 2005年07月 (第2版 2007年1月) | 自由国民社 | 三浦文夫編著 三浦文夫、百瀬孝、日高由央、木戸宣子、渡辺利子、半羽利美佳、高橋幸三郎、柴田洋弥、吉賀成子、朝倉和子、加藤美枝、中江章浩、永田あゆみ、小淵高志 担当：第6章6-2「学校福祉と学校保健」(p.131-134)、6-3「家庭・家族の福祉」(p.134-137) 本書は、社会福祉の理念を含む概念の変化や歴史的展開、法財政、実地体制、援助技術、分野論、社会保障を全体的に明らかにした参考書である。担当部分では、学校現場における心のケアや福祉的な支援に対する専門職の導入や子ども家庭福祉の概念やサービス供給について整理した。 |
| 2 学位論文 | | | | |
| 3 学術論文 | | | | |
| 1. スクールソーシャルワーカーの有効活用にむけての考察(査読有) | 単 | 2019年 | 武庫川女子大学紀要 人文・社会科学編 第67巻 | 「チーム学校」等を背景にスクールソーシャルワーカーを1万人に増員し、全公立中学校区に1名ずつ配置されたが、学校現場ではスクールソーシャルワーカーが有効活用されるには至っていない。そこで本論では、生徒指導との関連からスクールソーシャルワーカーの役 |

研究業績等に関する事項

| 著書、学術論文等の名称 | 単著・共著書別 | 発行又は発表の年月 | 発行所、発表雑誌等又は学会等の名称 | 概要 |
|---|---------|-----------|-----------------------------------|---|
| 3 学術論文 | | | | |
| 2. 研究倫理審査システムの開発と評価（査読有） | 共 | 2016年 | 武庫川女子大学紀要 人文・社会科学編 64巻, 41-49 | 割を整理し、教員とスクールソーシャルワーカーとの間で生じている役割分担の混乱の要因と今後の有効活用に向けてのスクールソーシャルワーカーの機能と役割を考察した。 竹中一平、松村憲一、半羽利美佳、玉木健弘、長岡雅美 本研究では、研究倫理審査に関する電子申請・審査システムを開発し、そのユーザビリティについて評価した。当システムは、申請書の受付や利用者の連絡等、研究倫理審査に関する事務処理の多くを自動化するとともに、研究倫理審査に関わる情報を一元化した。評価アンケートの結果から、当システムは一般的なWebサイトとほぼ同程度のユーザビリティであり、概ね使い勝手の良いものであることが明らかにされた。 |
| 3. スクールソーシャルワーカーに対するスーパービジョン体制の動向調査結果の概要（査読有） | 共 | 2013年6月 | 学校ソーシャルワーク研究 第8号, 83-84 | 門田光司、鈴木庸裕、半羽利美佳、比嘉昌哉、浜田知美、大門俊樹、奥村健一平成23年度および24年度のスクールソーシャルワーカーとスーパービジョン体制に関する調査結果を、スクールソーシャルワーク事業の動向資料として一覧表にまとめた。 |
| 4. アメリカにおけるスクールソーシャルワークの動向（査読有） | 単 | 2009年6月 | 学校ソーシャルワーク研究 第4号, 78-86 | アメリカ・ミシガン州およびウィスコンシン州での現地インタビューや資料をもとに、スクールソーシャルワーカーの資格、養成、実践活動の3点に着目し、アメリカにおけるスクールソーシャルワーカーの現況を示した。 |
| 5. スクールソーシャルワーク実践の課題ースクールソーシャルワーカーへのアンケート調査からー | 共 | 2009年3月 | 人間学研究 第24号, 43-52 | 半羽利美佳・金澤ますみ・浜田知美 平成19年度に活動していたスクールソーシャルワーカーを対象にアンケート調査を実施し、その雇用形態や活動内容を分析するとともに、スクールソーシャルワーカーがより効果的に活動するための環境整備がなされるために必要な要素について考察した。 |
| 6. スクールソーシャルワーカーの機能と役割 | 単 | 2008年8月 | 月刊少年育成 629号, 18-24 | 2008年度から文部科学省の新規事業として始まる「スクールソーシャルワーカー活用事業」にむけて、筆者のスクールソーシャルワーカーとしての実践活動をもとに、スクールソーシャルワーカーの機能と役割について考察した。 |
| 7. 兵庫県赤穂市におけるスクールソーシャルワーク実践報告ー学校外配置での活動を中心にー（査読有） | 単 | 2007年03月 | 学校ソーシャルワーク研究 創刊号, 47-56 | 本稿は、わが国の行政によるスクールソーシャルワーク事業のさきがけとなった兵庫県赤穂市での実践について、導入時からこれまでの活動内容を整理・分析している。特に、同事業の特徴ともいえるスクールソーシャルワーカーの学校外配置での活動内容や地域づくりに力点を置いた事業内容について分析し、今後求められる実践内容について考察している。 |
| 8. アメリカにおけるスクールソーシャルワークの現状と課題（査読有） | 単 | 2006年07月 | ソーシャルワーク研究 vol.32 No. 2, 14-19 | 学校という、いわゆる“福祉領域”以外の場でソーシャルワーク実践を100年にわたって行ってきたアメリカのスクールソーシャルワークの歴史と現状および今後わが国においての大きな課題となる資格要件や専門職養成についてを整理し、今後の課題について考察している。 |
| その他 | | | | |
| 1. 学会ゲストスピーカー | | | | |
| 2. 学会発表 | | | | |
| 1. 今後のスクールソーシャルワーク実践に向けての課題ースクールソーシャルワーカーへのアンケート調査からー | 共 | 2008年10月 | 日本社会福祉学会 第56回全国大会 | 半羽利美佳・金澤ますみ・浜田知美 平成19年度に都道府県教育委員会、市町村教育委員会、もしくは国・私立校でスクールソーシャルワーカーとして雇用されていた者を対象に自記式郵送調査を実施した結果を、「基本属性」「勤務形態」「業務内容」「職場環境の満足度」「雇用条件の満足度」「価値判断」「スーパービジョン体制」「研修体制」のカテゴリーで整理した内容とそこから導き出された今後の課題について発表した。 |
| 3. 総説 | | | | |
| 1. 子ども虐待への対応とケア | 単 | 2010年11月 | 『子どもと教育』 No.135 兵庫県教育文化研究所, 33-46 | 第50回兵教祖養護教員部サマーセミナーにて児童虐待に対する学校としてのケアについて講演した内容をまとめた。 |
| 4. 芸術（建築模型等含む）・スポーツ分野の業績 | | | | |
| 5. 報告発表・翻訳・編集・座談会・討論・発表等 | | | | |
| 1. スクールソーシャル | 共 | 2020年11月 | 明石書店 | キャロル・リッペイ・マサット、マイケル・S・ケリー、ロバート・ |

研究業績等に関する事項

| 著書、学術論文等の名称 | 単著・共著書別 | 発行又は発表の年月 | 発行所、発表雑誌等又は学会等の名称 | 概要 |
|---|---------|-------------|--|--|
| 5. 報告発表・翻訳・編集・座談会・討論・発表等 | | | | |
| ワークハンドブック ク－実践・政策・研究 | | | | コンスタンブル編著、山野則子監修、駒井安紀、佐藤亜紀、厨子健一、 <u>半羽利美佳</u> 、比嘉本書は、B.H.ワシックとD.M.ブライアントの“Home Vising”の翻訳本である。ソーシャルワーカーの家庭訪問に関する理論や援助技法の構築を目指したものである。担当部分では、援昌哉、平尾桂、横井葉子監訳 担当：第3章「野性的で未知な不思議の国を進む」(p.40-51)、付録C「全部まとめて考えてみよう－仮想事例(デビン)」(p.601-606) |
| 2. スクールソーシャルワーカーのスーパービジョン研究－日本・アメリカ・カナダ・韓国での調査報告－ | 共 | 2014年2月 | 平成23～27年度科学研究費補助金(基盤研究(B))研究成果報告書(研究分担者) | 今日のスクールソーシャルワーク実践に関連する主要な要素が記載されている。学校とスクールソーシャルワーカーが直面する主要問題に焦点を当てるとともに、実践・政策・研究面の変化を反映した第8版を翻訳したものである。 門田光司、鈴木庸裕、 <u>半羽利美佳</u> 、比嘉昌哉、大門俊樹、奥村健一 担当：「アメリカ・シカゴ調査報告」(p.14-28) わが国のスクールソーシャルワーカーの専門性を向上するためのスーパービジョン・プログラムの一環として、国内の現状調査とスクールソーシャルワーカー活用先進国であるアメリカ・カナダ・韓国での調査を実施した。担当部分では、アメリカ・シカゴでの現地調査で現任スクールソーシャルワーカーとディレクターにインタビューした内容をまとめた。 |
| 3. わが国におけるスクール(学校)ソーシャルワーカーの人材養成に関する研究 | 共 | 2010年3月 | 平成19年度～21年度科学研究費補助金(基盤研究(C))研究成果報告書(連携研究者) | 門田光司、鈴木庸裕、 <u>半羽利美佳</u> 、浜田知美 担当：第1章「アメリカにおけるスクールソーシャルワーカー養成」(p.4-11) スクールソーシャルワーカー人材養成の先進国であるアメリカ、カナダ、韓国の実態調査結果を踏まえ、わが国での学校ソーシャルワーカー人材育成のあり方を示した。社団法人・日本社会福祉士養成校協会によるスクール(学校)ソーシャルワーク認定過程が2009年度より福祉系大学で開始されるようになったが、認定課程設立に際して本研究結果が大いに活用される実績を残した。 |
| 4. スクールソーシャルワーカー実践活動事例集 | 共 | 2008年12月 | 文部科学省 | 野田正人、山下英三郎、山野則子、大崎広行、麻植昭夫、丸山涼子、佐々木千里、金澤ますみ、 <u>半羽利美佳</u> 担当：第3章の2 「スクールソーシャルワーカーの事例報告」(p.86-89) 本書は、スクールソーシャルワークの理論、教育委員会や学校関係者による実践報告、スクールソーシャルワーカーによる活動事例をまとめたものである。担当部分では、発達上に課題のあるケースについて、ケース会議を通じてどのように対応するのかを示した。 |
| 5. ホームビジティング訪問型福祉の理論と実践 | 共 | 2006年12月 | ミネルヴァ書房 | B.H.ワシック、D.M.ブライアント著、杉本敏夫監訳 杉本敏夫、宮川和君、遠藤和佳子、遠塚谷富美子、 <u>半羽利美佳</u> 、守本友美、袴田俊一、三田英二 担当：第5章「援助技術と技法」(p.99-126) 本書は、B.H.ワシックとD.M.ブライアントの“Home Vising”の翻訳本である。ソーシャルワーカーの家庭訪問に関する理論や援助技法の構築を目指したものである。担当部分では、援助者が家庭訪問を実施するにあたり必要な態度や技術、援助の流れが示されている。 |
| 6. 研究費の取得状況 | | | | |
| 1. スクールソーシャルワーカーの専門性向上のためのスーパービジョン・プログラムの開発 | 共 | 2011年～2015年 | 科学研究費補助金 基盤研究(B) | 研究分担者(研究代表者：門田光司) |
| 2. 日本のスクールソーシャルワーカーに求められる専門的知識・技術に関する調査研究 | 単 | 2009年～2012年 | 科学研究費補助金 基盤研究(B) | 研究代表者 |

| 学会及び社会における活動等 | |
|---------------------|-----------------------------|
| 年月日 | 事項 |
| 1. 2021年4月～現在 | 太子町スクールソーシャルワーカースーパーバイザー |
| 2. 2015年8月～2016年3月 | 伊丹市いじめ防止等対策審議会臨時委員 |
| 3. 2015年4月～現在 | 宍粟市いじめ問題対策委員 |
| 4. 2015年4月～現在 | 伊丹市スクールソーシャルワーカースーパーバイザー |
| 5. 2014年4月～現在 | 兵庫県スクールソーシャルワーカースーパーバイザー |
| 6. 2014年4月～2018年3月 | 宝塚市児童館等バックアップ事業ソーシャルワーカー |
| 7. 2013年4月～2021年3月 | 三田市生徒指導等問題対策委員（副委員長） |
| 8. 2012年～現在 | 一般社団法人チャンス・フォー・チルドレン アドバイザー |
| 9. 2007年4月～2012年3月 | 日本スクールソーシャルワーク協会（副会長） |
| 10. 2007年4月～2012年3月 | 日本学校ソーシャルワーク学会理事 |
| 11. 2006年～現在 | 日本学校ソーシャルワーク学会 |
| 12. 2000年4月～現在 | 赤穂市スクールソーシャルワーカーおよびスーパーバイザー |
| 13. 2000年～現在 | 日本社会福祉学会 |
| 14. 1999年～現在 | 日本スクールソーシャルワーク協会 |
| 15. 1998年～現在 | 関西スクールソーシャルワーク研究会会長 |